

次世代 郊外 まちづくり 通信

2012年12月発行

vol.2

編集・発行

横浜市・東京急行電鉄株式会社

[連絡先] 横浜市建築局企画課

☎045-671-3628



次世代郊外まちづくり通信は、「次世代郊外まちづくり」のさまざまな活動をお知らせし、地域の皆さまをはじめとして多くの方々に知ってもらうためのニュースです。

●次世代郊外まちづくり アンケート調査の結果をご報告します

このアンケート調査は、美しが丘1・2・3丁目を「郊外住宅地の再生型まちづくり」のモデル地区として、この地域にお住まいのみなさまの暮らしや街についての考え、ニーズをお聞きすることを目的として行いました。ご協力いただきありがとうございました。

ダイジェスト版として、アンケート結果の一部をご紹介します。このアンケート調査の詳細結果は、ホームページでもご報告しています。

【調査概要】

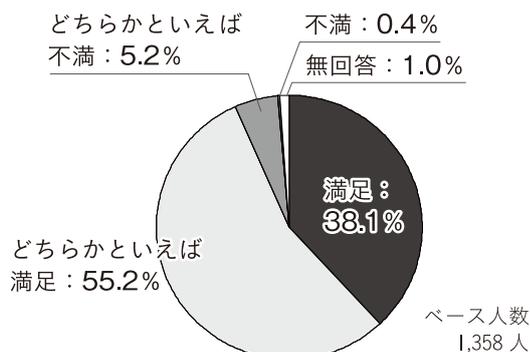
調査対象	美しが丘1～3丁目に居住する全世帯 *世帯数は6,495世帯（2012年3月31日現在）
調査方法	訪問留置郵送回収、一部訪問回収
調査期間	2012年7月26日～8月10日
回収状況	28.6%（依頼：4,752世帯 回収：1,358世帯）

1. たまプラーザに対する満足度とニーズ

【たまプラーザの満足度・不安・不満】

たまプラーザに対する全体的な満足度ですが、「満足」が38%、「どちらかといえば満足」を含めると9割以上が「満足」していることが分かりました。一方で、電車の混雑、図書館、宿泊施設の不足に対する不満が多くあげられていました。

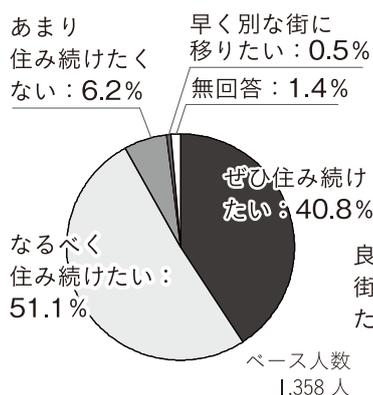
＜たまプラーザに対する満足度＞



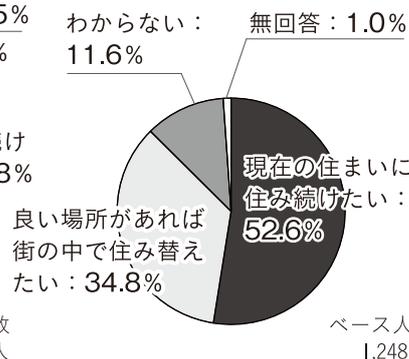
【定住意向】

定住意向については、たまプラーザの街に今後も「ぜひ住み続けたい」が41%、「なるべく住み続けたい」が51%と9割以上は住み続けたいと考えていることが分かりました。一方で「今後も住み続けたい」人を対象に現在の住まいへの今後の居住意向をたずねたところ、3分の1は現在の住まいにこだわっていないことが分かりました。

＜定住意向＞



＜今後の居住意向＞



2. 地域とのつながり・交流・街づくりに関する実態とニーズ

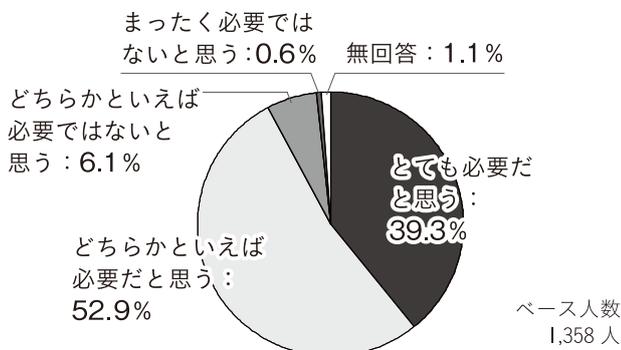
【知人・友人の存在】

美しが丘に「困ったときに助けを頼める人」「必要なときに情報助言をくれる人」「悩んでいることを話せる」友人や知人がいる人は3割から4割程度であることが分かりました。一方で、そのような知人・友人がいない人が2割前後であることが分かりました。

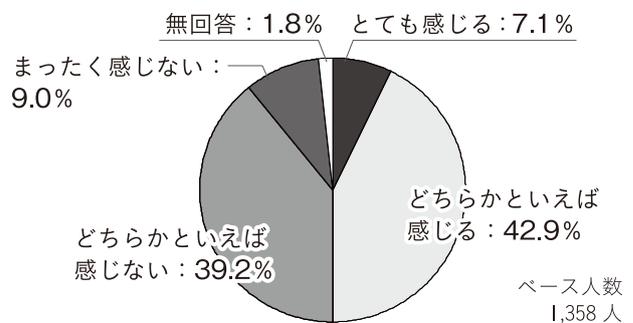
【地域とのつながり】

「地域とのつながりを必要と感じるか」どうかでは、「とても必要」が39%、「どちらかといえば必要」を含めると9割以上が「必要」と感じていることが分かりました。一方で、現状「地域とのつながりがあると感じるか」どうかでは、つながりがあるとの回答は約半数でした。

＜地域とのつながりが必要と感じるか＞



＜地域とのつながりがあると感じるか＞



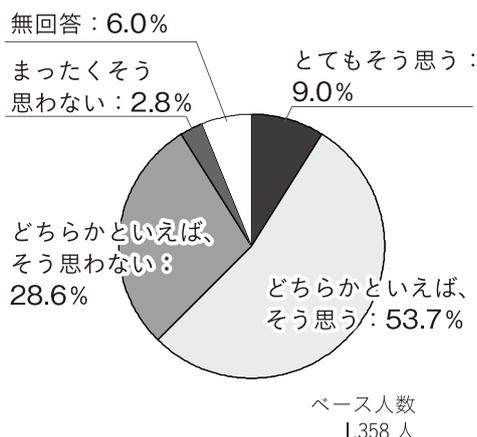
【地域での交流機会ニーズ】

地域での交流機会があればよいかについては、「そう思う」が9%、「どちらかといえばそう思う」を含めれば6割以上の人々が「交流機会があればよい」と考えていることが分かりました。

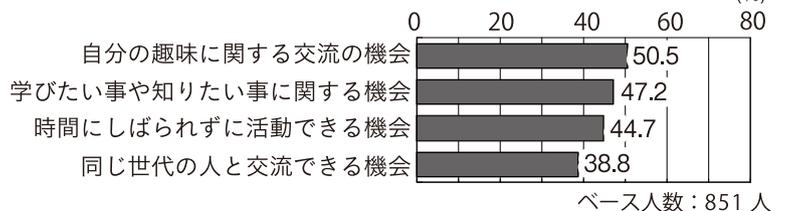
あればよいと思う交流や活動の機会については、「自分の趣味に関する交流の機会」が51%と最も多く、続いて「学びたい事や知りたい事に関する機会」が47%、「時間にしばられずに活動できる機会」が45%という結果になりました。

交流・活動する場所や施設については、「自宅から徒歩で行ける場所が良い」との回答が68%と最も多く、「図書館や学びの場があると良い」が39%、また、「交流できるカフェや食堂があると良い」「地域の集会所が良い」と3割近くの人々が回答していました。

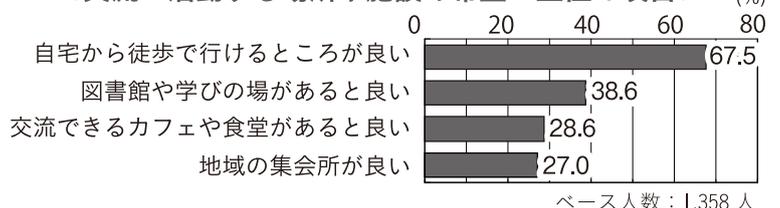
＜地域での交流機会があればよいか＞



＜あればよいと思う交流や活動の機会：上位4項目＞ (%)



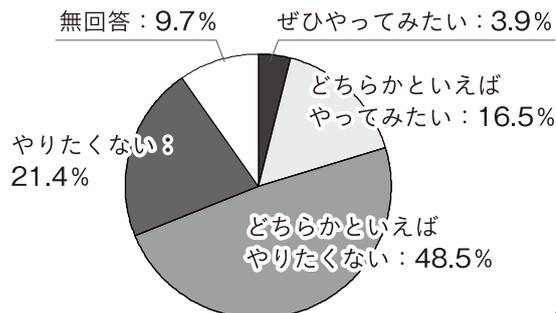
＜交流・活動する場所や施設の希望：上位4項目＞ (%)



【街づくりの担い手意向】

地域で「住民が管理者・担い手となって街づくりを行う制度」ができれば、その管理者・担い手となって街づくりを行ってみたいかとの問いに対しては、「ぜひやってみたい」人が4%、「どちらかといえば、やってみたい」人を含めると、やってみたいと考える人が2割以上いることが分かりました。

<街づくりの担い手となる意向>



ベース人数
1,358人

3. 情報・移動・環境に関する実態とニーズ

【コミュニケーションツール】

利用しているコミュニケーションツールでは、インターネットが76%と最も多く、ついでEメールが60%、フェイスブックも16%でした。

一方で、いずれも利用していない人も14%いることが分かりました。

【環境・エネルギー意識】

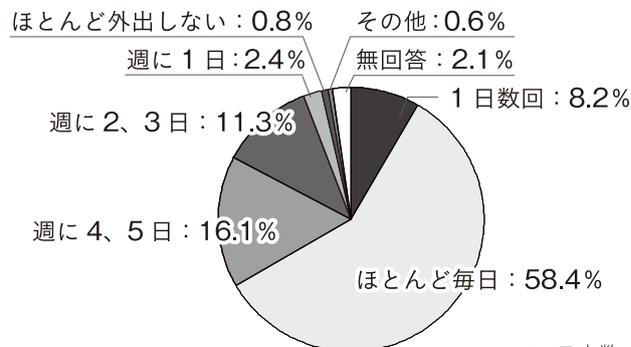
環境・エネルギーに対する意識については、「無駄な電気や水を使わない努力をしている」「詰め替え商品を購入している」「過剰な包装を断っている」といった努力や心がけを行っている人が目立つほか、「地域全体で省エネに取り組むべき」といった考えも約8割と高いことが分かりました。

【外出頻度・移動手段】

外出頻度は7割近い人がほとんど毎日外出する一方で、週に2、3日またはそれ以下の人も2割近くいることが分かりました。

移動手段では、電車が88%と最も多く、ついで徒歩が77%、自家用車が53%でした。また、自動車を保有している人は約6割であることが分かりました。

<外出頻度>



ベース人数
1,358人

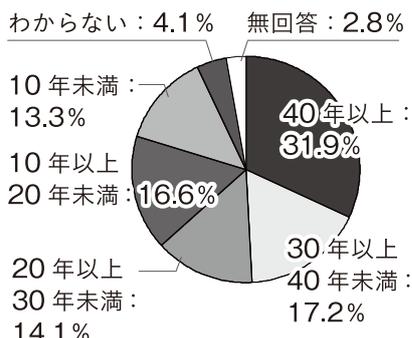
4. 住まいに関する実態とニーズ

【住居形態・築年数・居住年数】

住宅の築年数は、40年以上が32%と最も多く、30年以上経っている建物に居住していると回答した人が約半数を占めています。

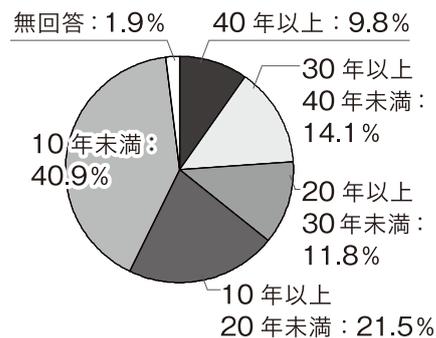
一方で、居住年数では10年未満が約4割と居住年数は比較的短い人が多いことが分かりました。

<住居の築年数>



ベース人数
1,358人

<居住年数>

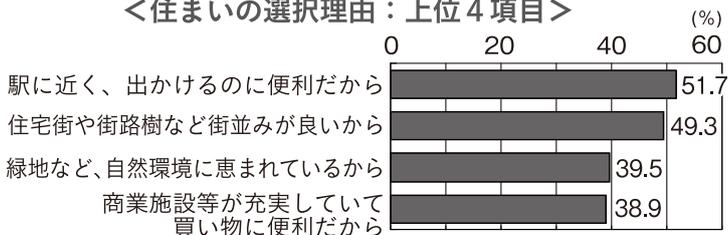


ベース人数
1,358人

【住まいの選択理由】

住まいの選択理由では、「駅に近く出かけるのに便利」といった交通利便性が52%と最も多く、「街並みが良い」も半数近くの人が理由として挙げています。また、「自然環境」「商業施設の充実」といった点を挙げる人も4割近くいました。

＜住まいの選択理由：上位4項目＞

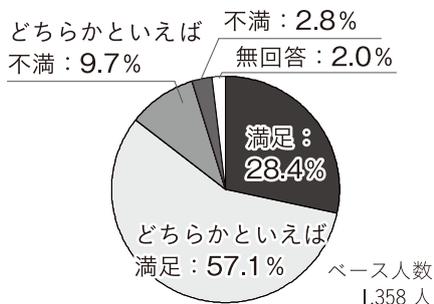


ベース人数：1,358人

【住まいに対する満足度・不安・不満】

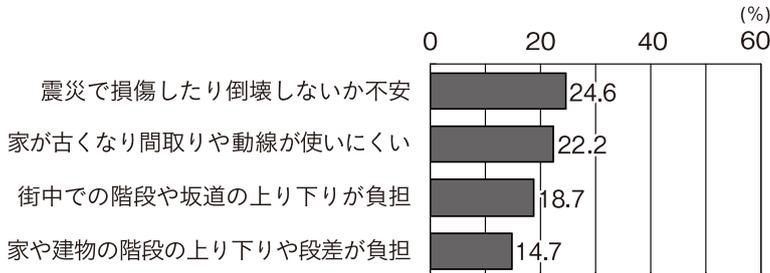
住まいに対する満足度は、「満足」が28%、「どちらかといえば満足」を含めると85%の人は満足していることが分かりました。一方で、住まいや住まい周辺の不安・不満・不便さについては、「震災での損傷倒壊」が25%と最も多く、ついで「間取りや動線の使いにくさ」も2割以上が挙げています。また、街中や家の坂道・段差に対しても多くの人が負担と感じていることが分かりました。

＜住まいに対する満足度＞



ベース人数
1,358人

＜住まいや住まい周辺の不安・不満・不便さ：上位4項目＞



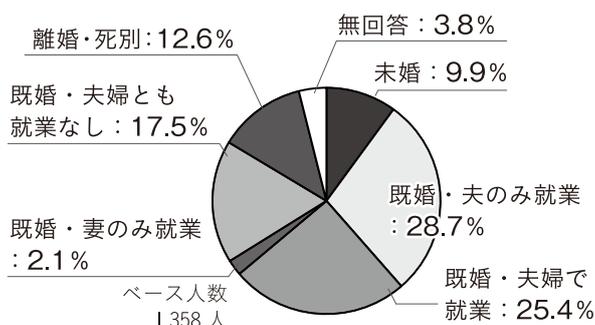
ベース人数：1,358人

5. 家族・世帯の状況

【未既婚・ライフステージ】

未既婚については、既婚が74%、その中でも「夫のみ就業・収入あり」が29%、「夫婦で就業・それぞれ収入あり」が25%であることが分かりました。一方で、夫婦とも就業していない人も2割近くいることが分かりました。ライフステージについては、未婚を含む全体では子どもがいない人が24%、末子が社会人となっている人が35%を占めています。

＜未既婚・夫婦の就業状況＞



ベース人数
1,358人

速報！

「次世代郊外まちづくり」の主要な取組として、「医療・介護連携の地域包括ケアシステム推進部会」を設立しました！

高齢者が住み慣れた地域で自立した生活が続けられるように、在宅医療の充実と、医療・介護が連携した地域包括ケアシステムの実現を目的とした部会を立ち上げました。この部会には横浜市青葉区医師会や地域医療機関、介護事業者が参加し、一緒に検討を進めます。「次世代郊外まちづくりワークショップ」でも、地域医療、介護問題が近い将来に心配になるとのご意見を多くいただいております。横浜市ではこの部会の取組を環境未来都市計画の実現に向けたモデル事業として位置づけ推進していきます。

※通信に掲載の各内容の詳細はホームページにて公開しています。

<http://jisedaikogai.jp/>



横浜市



東急電鉄